

# 農村開発・環境保全

## コロナダル市ボルールのアグロフォレストリー事業が完了しました



緑の募金交付金による事業であることを示す横断幕を設置するボルールの受益者

昨年7月に開始したコロナダル市ボルールにおけるアグロフォレストリー事業が、予定通り6月末に完成しました。

受益者30世帯30haの緩傾斜地に植えられたココヤシ、果樹、コーヒー、バナナの苗木総数約6,000本、急傾斜地10haに植えた在来種と竹苗約5,000本は、2回の手入れ作業を終えて順調に生育中と聞きました。

また、PFP農業専門家ニックと助手でボルール出身のボニファシオが担当した理念、技術研修の参加率も高かったようで、近い将来の確かな実りに期待できます。詳細は8月上旬現地訪問のアガさんの帰国後、入手した報告資料をもとに次号でお伝えいたします。

### ツピ町のアグロフォレストリー、対象地域を同町のクロッドに変更します

6月に入って間もなく、PFPの連絡担当ビビアンさんから、ツピ町バラングイ・ブナオのアクファオンにおける事業、住民組織化の段階で躓いている、ボニファシオ提案のクロッド地区への変更は可能かという問い合わせが入りました。イオン環境基金の助成を受けて開始した事業であり、変更にはその許可が必要です。しかも、地域変更は原則不可という規定があり、助成金返還という最悪の状況も想定しながら、変更申請をしました。

以下は、主な変更理由です。

- ① 支援要請を受けてから4年が経過し、貧困世帯の多くは拡大するプランテーション日雇労働に就いていて、理念、技術研修参加を含む事業の全行程参加を表明したのは、数世帯に過ぎなかった。(苗木だけ欲しい住民は多かったが)
- ② 一方、新地域クロッドは、CMIPの支援エリアにあって、安易にプランテーション企業に土地を貸さない指導を受けていて、持続可能な収入向上事業アグロフォレストリーへの関心が高い地域である。

\* 変更申請の結果：幸い約1週間でクロッドへの変更許可をいただき、現地に新地域クロッドでの住民組織化を指示したところ、7月初めにはすでに30世帯の参加者が決定したという報告を受けました。

### 先住民族学校への水牛プレゼント - ご協力ありがとうございました！ -

前93号P4で、ご協力の呼びかけをさせていただいた先住民族学校の農園開発に必要な水牛について、計3名の方からご寄付をいただきました。ご協力に深く感謝申し上げます。

お一人からいただいた5万円で、水牛を購入、その後受領した会員2名のご寄付計11,000円で、耕運に必要な犁一式をそろえました。

今回アニータ先生を、水牛寄贈で応援くださった皆様、ありがとうございます。先生は、SCMSI校も公立校にも年少児童には遠くて通えないレイクセブ町南西部の辺境の村で、幼稚園から2年生までの先住民族学校を運営し、同時に、私たちが支援した事業終了後の、コーヒー、果樹、ココヤシ、在来種などの苗木の見守り役もして下さっています。

学校農園で育てるバナナ、果実、野菜類は、給食の食材として使うほか、レイクセブ町中心部の公設マーケットで販売し、教材費に充当しますが、水牛はこれらの農産物運搬にも使われます。

今回購入の水牛の世話役には、父母の中からジェニーブ・リタニコさん(写真・右)が選ばれました。



水牛は先住民族同士が結婚するときの結納にも使われる貴重品で、共同購入のケースでは、過去には世話役が私物化するケースがありました。

昨年終了したアグロフォレストリー事業でも、アニータ先生(写真左)に協力して、父母や地域住民のまとめ役としてリーダーシップを発揮したジェニーブさんは、水牛管理者にふさわしいと評価されたようです。

最初に水牛資金に協力いただいた会員から、水牛にはチボリ語の「日本」と名付けていただくのはどうかという提案をいただき、現地にその意向を伝えました。まだ、その返信は届きませんが、チボリ語もウボ語も「日本」は、タガログ語と同じハポンではないかと思えます。

「ハポン」が子どもたちの役に立つことを願っています。